

令和 6 年度学校関係者評価書

南アルプス市立小中一貫校八田小中学校

第 3 回学校運営協議会 令和 7 年 2 月 21 日(金) 18:00~ 八田中学校

<学校運営協議会委員>

会長 穴水 秀人(学識経験者 元中学校校長)

副会長 穴水 健二(元八田小中学校 PTA会長)

委員 土橋 秀徳(住民代表 自治会長代表)

湯沢 信 (住民代表 R6八田中学校PTA副会長)

貝瀬 修二(住民代表)

笹本 学 (住民代表 元小中学校校長)

角田 珠菜(R6八田小学校PTA会長)

清水 芳文(R6八田中学校PTA会長)

大堀 修己(地域有識者)

藤巻 孝也(八田小後援会)

井上 孝雄(八田地区学校応援団)

樋川 純一(市青少年育成会議)

長澤 廣秋(八田地区地域コーディネーター)

石原 裕 (八田小学校校長)

川手 昌英(八田中学校校長)

※生徒・保護者・教職員を対象に行ったアンケートをもとに作成した「自己評価書」を

ベースとして成果や課題等を検証し、次年度へつながるようにご意見をいただいた。

中学校に関わる意見

①自己評価

- ・小中一貫のグランドデザインにある「目指す子ども像」を達成させるための小中共通した柱(テーマ)を教育課程に位置付けることが、ここ数年、学校関係者評価委員会や学校運営協議会の中で課題とされてきたが、小中一貫教育推進研究会を構成している4部会の取り組みの中で、何か1つ柱となるものを探り、9年間を見通した教育課程(支援計画)の作成等をお願いしたい。

例)防災、キャリア、地域起こし、地域ふれあい 等

②生徒アンケート

- ・教師・生徒間や生徒間の人間関係が昨年より円滑であることが伺える。
この結果に満足せず、さらに数値を高められるように取り組んでいってほしい。
- ・設問を「教師」から「保護者」「友達」「その他」等に広げてみることも次年度以降に検討してみてはどうか。

③保護者アンケート

- ・生徒が安心して学校生活を送ったり、相談できる先生がいるという環境づくりに努め、保護者との良い関係を構築することにつとめていってほしい。

④スマホ・携帯について

- ・教育を語る会等で保護者、教師、地域の方、生徒による「家庭で使うときのルール」を考える機会の検討をお願いしたい。

小学校に関わる意見

(1)学習保障と学力向上のための取組

- ・日々の地道な授業実践が必ず実を結ぶ。
- ・スリンプルプログラムは、良い取り組みだと思う。ただ、全学年となると、下の学年ほど結構緻密に計画しないと実践が大変ではないかと思う。がんばってほしい。自分の考えを伝えることが当たり前になるためには、自分自身の問題であると同時に、取り巻く環境の在り様も大切である。この実践で、自分の考えを伝えることや人の話をきちんと聞くことの習慣がつくことを期待する。それが学力(人間力)向上につながると考える。

(2)いじめ・不登校に対する取組

- ・上記②④と同意見

(3)地域に開かれた学校づくり・コミュニティ・スクールの定着に向けた取組

- ・小中連携に係るアクションについては、毎年継続していただいているようで、子どもたちにとっても良い経験になっていると思う。
- ・「グランドデザイン」を意識した取り組みについては、「目指す子ども像」に近づけるため、その推進を9年間というスパンでどのように教育課程に位置付けるかということに尽きる。上記①と同様(4)・同感です。違った個性を持つたくさんの人と関わること

とが子どもたちにとって財産となる。「教科担任制」「縦割り活動」「クラスにこだわらない学年活動」等活動形態を工夫するすることが大切である。

<次年度に向けて>

- ・今年度から小中一貫教育研究会にある部会を4つの部会に再編を行い【教育課程編成部会】にて9年間を見通した教育課程の編成に取り組みを始めました。 その他の部会においても、【児童生徒交流部会】において、交流会の充実や【児童生徒理解】でのQU調査をもとに同じシートに記載して活用していくことや、【学習指導部会】において伝え合う力の育成、小中で共通した授業の受け方、学習指導の方法など、共通して新しいを取り組みを行っている。
- ・生徒アンケートの「学校が楽しいか」という設問において、学校全体として、常に100%を目指していくという気持ちで日々取り組んでいくということ、キャリアカウンセリングやQU調査の結果も交えて個別の対応を来年度も継続していく。
- ・保護者アンケートの「相談できる先生がいる」という設問において、まずは生徒が安心して相談できる先生がいることで、保護者の理解が進んでいくものと考える。そのため、これからも生徒の気持ちに寄り添いながら、対応等できる教師集団を育成していきたい。
- ・スマホ、ケータイの使い方等について

今年度、八田中学校では、保護者と生徒向けのスマホ等の使い方講習会を外部講師を招いて行った。この件は、繰り返しの指導や情報の発信が必要となるために、来年度も継続して取り組んでいく。4月の授業参観にて親子でのスマホ使い方講座を計画中である。生涯学習課によると、市として地域全体で子どもたちをネットトラブルから守るための取組を推進している。これらは、地域や学校、保護者一体での取り組みは不可欠であり、相互に理解を深める重要な場でもあるので、市としても推進していただきことをお願いしていく。それとともに以前に行った、教育を語る会での「スマホ・携帯のルール作り」の内容を継続活用し、次年度に向けたさらなる取り組みを行っていきたい。

小学校においては、スマートフォン(携帯電話)やタブレットのルール作りについては、市の生涯学習課と連携を図る中で、保護者が学習する機会の周知を図っていく。小中合同の取組として、県警察本部人身安全・少年課の少年対策官を講師として迎え、子供・保護者・教職員・地域住民がともに考え、意見交換を行う機会としての「教育を語る会」を令和7年度に実施する予定である。

- ・今年度の3学期から全校で取り組んでいる Slimple プログラムについては、小学校では令和7年度、年間をとおして取り組むこととし、取り組み状況について定期的に成果や課題について共有しながら、発達段階や実態に応じたものになるよう取り組んでいく。

・学校生活を楽しく感じていない子供は、どのようなことが楽しくないのか、学習面でのつまずき、人間関係などを見取り、改善していく必要がある。小学校では、南アルプス市の取組でもあるグループ担任制を推進するなかで、学習者主体の授業や個別最適な学び、協働的な学びのさらなる充実を図るとともに、多くの教職員の目で日常的な声掛けをし、子供が相談しやすい環境づくりに努める。また、学年職員や生徒指導主任、養護教諭、管理職と情報共有を行い、スクールカウンセラーにも積極的に関わっていただきながら実態を把握するなかで、組織的な対応を継続していく。

・最後に

八田小中一貫教育の周知や八田中学校員が八田小学校へ乗り入れ授業（英語、体育、音楽）を行っていることに対していろいろな形で知っていただくことはとても有効であるので、今後小中で検討していく予定である。